



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル・パレスチナ：ガザ情勢（2） 停戦あるいは地上戦

11月10日頃から激化したイスラエル軍とガザの武装勢力の衝突は、14日から本格的な戦闘に拡大した。イスラエル軍は、14日から武装勢力幹部を狙った作戦を開始した。ハマースなどの武装勢力は、イスラエルに対するロケット弾攻撃の規模と攻撃範囲をいきなり拡大させ、15日にはテルアビブを攻撃した。16日には、ガザからのロケット弾がエルサレム近郊に着弾した。テルアビブは、1991年春にイラクのスカッド・ミサイルの攻撃を受けたし、19日までに3回のロケット弾攻撃を受けている。今回、エルサレムが攻撃されたのであれば、聖地に対する攻撃は初めてである。

報道（20日）では、19日までのパレスチナ人死者は100人を越えた。イスラエル人の死者3人である。イスラエル軍の発表では、ガザから発射されたロケット弾1150発、内イスラエル国内に着弾したのは664発、イスラエル軍の「鋼鉄の屋根」迎撃システムはロケット弾340発を撃墜した。イスラエル軍のガザ空爆は1350カ所に及ぶ。別の報道では、パレスチナ側のロケット弾の大部分は、空き地や砂漠に着弾し、約35発が被害を生んでいる。

イスラエルは、主要都市攻撃を受けて、一部予備役兵士を招集した。陸軍部隊は、ガザ近郊に配置され、ガザ侵攻の体制を取っている。イスラエル地上軍が、ガザを侵攻すれば、ハマースが統治するガザへの作戦としては2009年1月以来、2回目になる。

今回の緊張激化に際しては、アラブ諸国の政治家らが、情勢の沈静化に積極的に動いている。エジプトのガンディール首相（16日）、チュニジアのアブドルサラーム外相（17日）が、ガザを訪問した。アラブ連盟は、17日にカイロで緊急外相会議を開催し、近くアラブ連盟及びトルコの外相らがガザを訪問する予定である。

停戦協議は、従来からエジプトが仲介役を担ってきた。今回もカイロで協議が行われている。同協議は、18日にかなり本格化したと報道されている。ネタニヤフ首相、バラク国防相、リバーマン外相らは、18日から19日にかけて、数回にわたり、カイロでの協議に参加した担当者から、協議内容の報告を受けているようだ。イスラエルの治安閣議は、19日夜に停戦案について協議した。イスラエル政府首脳は、陸上戦開始の姿勢を維持しつつ、停戦合意にも期待を表明している。イスラエルのハアレツ紙（20日）は、イスラエルには、悪い選択肢が2つしかないと分析している。一つは、厳しい内容の休戦受諾であり、二つ目は陸上戦突入である。

20日、米国はクリントン国務長官が、イスラエルとパレスチナを訪問すると発表した。停戦に向けた動きが、一段と活発化するだろう。

評価

イスラエル軍は、2009年1月に約2週間にわたるガザ侵攻作戦を実施した。イスラエル軍は、約1400人のパレスチナ人を殺害し、ガザ市街地を無差別に攻撃して、厳しい国際的非難を受けた。後日、国連は、ガザでの戦闘に戦争犯罪の疑いありと主張した。イスラエル軍の作戦終了後も、ガザからのロケット弾攻撃は続いた。今後、イスラエル軍がガザに侵攻しても、2009年1月のパターンの再現になる可能性が高い。

イスラエル軍にとって、ガザへの侵攻作戦は、結果を出す可能性が低い上に、確実に国際的な非難を招き、かつ再度、戦争犯罪で追及されるリスクのある軍事行動である。衝突激化後の世論調査では、イスラエル国民の大半が今回のガザ攻撃を支持している。しかし、空爆に限定した攻撃への支持率に比較すると、地上軍投入への支持率は低い。イスラエル国民も、地上部隊がガザに入れば、ろくなことにはならないと思っている。イスラエル政府も軍も、地上戦なしでロケット攻撃が停止できるのであれば、そのほうがはるかに望ましい選択肢になる。イスラエルでは、2013年1月に総選挙が行われる。世論調査では優位に立つ右派政権や政党であるが、ガザ情勢への対応で失敗すると選挙に大きな影響が出る。選挙との関係では、地上戦突入は、負ける確率の高いギャンブルになる。

2009年の1月の戦闘が終結した後、ガザから国外に出た複数のパレスチナ人に、当時のガザの市民は誰に怒っているかを聞いた。当時のガザの住民の怒りは、イスラエル軍とハマースに向かっていた。今回、地上戦闘が拡大すれば、ガザ住民は同じ反応を示すだろう。空虚ではあっても、大義名分を掲げてイスラエルと戦うハマースやその他の武装勢力を、パレスチナ人やアラブ人が正面から批判するのは難しいだろう。他方、ハマースのロケット弾攻撃は、イスラエル国民に不安を感じさせる効果はあるが、それ以上ではない。またハマースのイスラエルへの抵抗運動の最大の成果が、せつかくガザから撤退したイスラエル軍を、再びガザに招き入れるのでは、話にならない。イスラエル軍をガザに誘い込み、軍事的に大打撃を与えるのであれば、多少の合理性はあるかもしれない。しかし、2009年1月、イスラエル軍がガザに侵攻した際、ハマースの戦闘員らは、ろくに戦闘もせず逃げた。矢面に立たされたのは、ガザの市民だった。今回も、同じことが起きるだろう。

イスラエルとハマースが停戦で合意すれば、今回の衝突激化では、双方は勝者であると主張できるかもしれない。しかし、ガザでの地上戦が開始されれば、イスラエル軍もハマースも敗者になるだろう。そして、ガザの市民が最大の被害者になる。エジプトやアラブ連盟は、ガザ市民が最大の被害者になる事態を回避しようと尽力している。

(中島主席研究員)